



きんたろう倶楽部通信

創刊号

2006年4月23日発行
きんたろう倶楽部事務局
〒930-0151
富山市古沢254番地
富山市ファミリーパーク内
TEL&FAX 076-434-1316
http://kintaroclub.net
E-mail:info@kintaroclub.net

人びとが暮らすために必要な森づくり、子どもたちがのびのび育つために必要な森づくり。
それにはあなたの力が必要です。

自然の恵み豊かな富山の里山を、いっしょに創りませんか。

育っています。そのあとは周りの勢力に押さえられたのか、数えることが困難なほど細かな年輪でした。本来なら15〜20年目で一度間伐に入るべきだったのです。

初めての方も多かったのですが、怪我やトラブルもなく無事終わりました。2005年11月26日
森林体験バスツアー

■Aコース 丸棒加工センター見学、大山地内里山林で間伐作業体験など
■Bコース 木材加工センター見学、富山市こどもの村周辺林で植林作業体験など

今回2コース合わせて10名ほどの参加があり、女性も多く参加しましたが、児童の参加も10名ほどありました。私はAコース大山方面に参加。大型バス2台で、吉峰の丸棒加工工場の見学。細い間伐材を生のまま皮をむき、防腐処理をして土止め用などにし、山に戻して利用するというもので、質問も多くの方からとんでいました。次に福沢の黒牧地内で、孟宗竹が侵入した杉林での作業体験。手鋸を使い、2〜3人で1本くらい切りました。鋸を使い慣れない方も多く、貴重な体験だったようです。

■富山市古沢地内(城山公園遊歩道沿いの山林周辺)
曇天の空ですが、参加者は10名以上と大成功です！ 雨具を装着して作業をしました。

富山市ファミリーパークの見晴らし広場の上に広がる、竹の折重なった

人間は自然の感覚を取り戻せ

養老孟司先生インタビュー

今年1月発売のベストセラー『超パカの壁』で、「今の日本には、明らかに問題がある」「私はものの考え方、見方だと思っている。そこがなんだか変なのである」と書く、養老孟司さん。来富の山に、自然と都市、自然との付き合い方などについて、お話をうかがった。

クマの異常出没のあの昨年5月、富山市で『またぞ山が』『沈黙の森』徹底トク』のシンポジウムが開かれました。結果としてそれが、きんたろう倶楽部につながってきました。山や里山などが荒廃する背景には、自然の見方や感じ方が変になってきているといえるのではないのでしょうか。

ひとつには、人間は感覚を取り戻せというところになるでしょう。最近のテレビでもやりましたけど、日本の古典芸能や宗教が、どんなふうにも感性を磨いてきたのか、その例をやったのです。能楽の師匠の梅若さん、スマナサーラさん(スリランカの仏教界の大長老)ですが、二人とも同じなんです。

瞑想で、教えたらずく似たようなことができる。自分の身体の動きだけに集中する瞑想なのですが、歩くときもゆつくりと。ほんとに、スローモーションのように動くのですが、自分で身体感覚に集中する。それをやると、おもしろいことに全体の活性化が行わ



ようろう・たけし
少年のころから虫採りで野山を駆けまわると。都市の住民が定期的に山へ行き、自然の暮らしや森の“手入れ”を体験する「山と都市の参動交代」を唱える。1937(昭和12)年、神奈川県生まれ。東京大学名誉教授。専門は解剖学、科学哲学。著書に『唯脳論』『都市主義の限界』『いちばん大事なこと—養老教授の環境論』『パカの壁』『超パカの壁』など多数。

育っています。そのあとは周りの勢力に押さえられたのか、数えることが困難なほど細かな年輪でした。本来なら15〜20年目で一度間伐に入るべきだったのです。

初めての方も多かったのですが、怪我やトラブルもなく無事終わりました。2005年11月26日
森林体験バスツアー

■Aコース 丸棒加工センター見学、大山地内里山林で間伐作業体験など
■Bコース 木材加工センター見学、富山市こどもの村周辺林で植林作業体験など

今回2コース合わせて10名ほどの参加があり、女性も多く参加しましたが、児童の参加も10名ほどありました。私はAコース大山方面に参加。大型バス2台で、吉峰の丸棒加工工場の見学。細い間伐材を生のまま皮をむき、防腐処理をして土止め用などにし、山に戻して利用するというもので、質問も多くの方からとんでいました。次に福沢の黒牧地内で、孟宗竹が侵入した杉林での作業体験。手鋸を使い、2〜3人で1本くらい切りました。鋸を使い慣れない方も多く、貴重な体験だったようです。

■富山市古沢地内(城山公園遊歩道沿いの山林周辺)
曇天の空ですが、参加者は10名以上と大成功です！ 雨具を装着して作業をしました。

富山市ファミリーパークの見晴らし広場の上に広がる、竹の折重なった

都市では粉飾決算や耐震偽装など偽装問題が多いですね。

それそれ問題が違うと思うのですが、ライブドアの場合ははじめから架空の問題でしょう。架空の問題を、いつてみれば架空の法律でできているトランプリンのような空中戦。問題の所在そのものがおかしい。株価が時価総額世界一の会社をつくるというつも、それは計算上だけの問題ですから。株全部を売るわけにはいかない。時価総額といっても意味をもたない。その手のことが多い。結局それが何のためのものなのか、わからなくなってきた。

耐震偽装問題は、考えるのをやめたこと。つまり、作っている方も、地震がきたらすべてチャラと考えている。だから、だれも責任をとらない。ぜんぶが考えることをやめている。やはり、空中戦です。

それらは身体にもつながっていないし、自然にもつながっていない。ちょっとプリミティブに戻さなければならぬ。今すべてが、宙に浮いている。

根っこが大地につながっていないという意味ですね。今度はぜひ富山に虫採りにきてください(笑)。

〈取材&文責・情報づくりチーム



森の楽校講座で里山について学ぶ

きんたろう倶楽部は、富山市主催の市民が森を守る活動に参加し、猿倉や福沢での森林整備、呉羽丘陵での竹林整備などの活動を行いました。倶楽部としては初めてのフィールド活動でしたが、今後この経験を活かし、地域も県内外に広げて、倶楽部独自の活動につなげようとして話合っています。

2005年11月20日
里山林の整備作業

■大沢野猿倉スキー場周辺林、福沢地内の山林間伐など

心配した天気も快晴で、低山帯の紅葉の後ろに雪山が響え、景色も最高でした。10名以上の参加がありました。

1時間半ほど杉林の下草刈り、低木の除伐の作業をしたあと、森林組合の職員さんがチェーンソーによる伐倒、玉切りの実演。倒された胸高直径30cmと20cm強の衰弱した木は、年輪を数えてみると20年くらいまでは伸び伸びと

育っています。そのあとは周りの勢力に押さえられたのか、数えることが困難なほど細かな年輪でした。本来なら15〜20年目で一度間伐に入るべきだったのです。

初めての方も多かったのですが、怪我やトラブルもなく無事終わりました。2005年11月26日
森林体験バスツアー

■Aコース 丸棒加工センター見学、大山地内里山林で間伐作業体験など
■Bコース 木材加工センター見学、富山市こどもの村周辺林で植林作業体験など

今回2コース合わせて10名ほどの参加があり、女性も多く参加しましたが、児童の参加も10名ほどありました。私はAコース大山方面に参加。大型バス2台で、吉峰の丸棒加工工場の見学。細い間伐材を生のまま皮をむき、防腐処理をして土止め用などにし、山に戻して利用するというもので、質問も多くの方からとんでいました。次に福沢の黒牧地内で、孟宗竹が侵入した杉林での作業体験。手鋸を使い、2〜3人で1本くらい切りました。鋸を使い慣れない方も多く、貴重な体験だったようです。

■富山市古沢地内(城山公園遊歩道沿いの山林周辺)
曇天の空ですが、参加者は10名以上と大成功です！ 雨具を装着して作業をしました。

富山市ファミリーパークの見晴らし広場の上に広がる、竹の折重なった



コナラの苗を植樹する場所の説明をうける

急峻な斜面が作業場所でした。仕上げたエリアは2500m。ここは段々畑の跡で、戦後はサツマイモ畑だったとのこと。立派なスギや広葉樹もありましたが、竹が生い茂り折り重なりすぎて気が付かないほどでした。

急峻な斜面では、しなつた竹にノコを入れたと竹が撥ねて危険なので、他の人の安全を確保しての作業。滑りやすく、足元に気をつけながらの作業はなかなか進みませんでした。が、人海戦術が有効のようです。

以前、NHKで「千人のチカラ」というシリーズがありました。呉羽丘陵全体を同時に千人で取り掛かったとしたら、作業後の空撮写真では、きつと山の形が違って見えるでしょうね。

2006年3月19日
植樹(市民いきものメイト主催、どんぐりの里親事業、座学講座(呉羽丘陵森の楽校主催))

■富山市古沢地内(富山市ファミリーパーク園内)
午前の植樹作業は、ファミリーパークを舞台に活動をしている市民いきものメイト主催のどんぐりの里親事業。4年前からの取り組みで、呉羽丘陵で



炭焼き窯に竹をつめる

どんぐりを拾い、各家庭で苗木に育ててもらい、それを元の山に戻すという事業を続けています。3年前にどんぐりを持ち帰った小学生の姉弟が、3世代連れだって参加されていたのが印象的でした。

今回は森林インストラクターの鶴巻登志広さんの指導で、「自然配植緑化」という新しい植樹をしました。どんぐりから芽吹いた2〜3年の苗というものは、高さ10〜30cmくらいで、葉が落ちた状態では、まるで細い棒のようです。この弱々しい「棒」を西日などから守り、竹藪を皆伐した斜面に芽吹く木々と競争させて育てようというものです。

午後からは、呉羽丘陵の利用促進を考えるワーキンググループ森の楽校の講座。鶴巻さんの「里山の過去から未来へ。そして今できること」という講演と、地元古沢の古老、村藤政雄さんの「里山呉羽山」のくらし今昔」とい、呉羽の変化を見つめ続けた生の声を聞くことができました。村藤さんの話は、戦前から現在までの呉羽丘陵での暮らしぶりの変化が、いきいきと伝わってくる貴重なものでした。

2006年4月1日
竹伐採・炭材作り(ブレイベント)

■富山市古沢地内(富山市ファミリーパーク園内)
今日は竹林整備の第1弾。昨日の午後まで吹雪いていて不安がつりましたが、天気予報通りの快晴！ 気温もぐんぐん上がり、作業をしていると汗ばむほどでした。

午前中は、ファミリーパーク内を通る古沢用水沿いの孟宗竹の伐採。ここは里山林に竹が侵入して増えすぎたため、在来木を枯らし、さらにこの冬の大雪の重みで割れて用水を堰き止めてしまい、水が溢れ出したところ。20名あまりの参加者が用水沿いから順次、皆伐していきました。

午後からは、炭材作り。軽トラ3杯分の竹を運び、竹を割って窯に詰めやすい大きさに荒縄で束ねていきま。炭材束束ねる荒縄の結び方がなかなか覚えられず、メイトのメンバーが付きつきり。明日も引き続き同じ作業をしますが、この結び方、果たして一晩寝た後でも覚えていられるのでしょうか？

〈きんたろう倶楽部事務局 竹田峰子

きんたろう倶楽部では会員を募集しています。個人会員・団体会員として、あなたも登録してみませんか。また事務局ではボランティア大募集！ あなたの自由になる時間に、あなたのできることで結構です。内容は、事務補助(PC入力、電話番、郵便物の準備、記事スクラップ)、活動準備(プランニング、下見、道具の準備、片付け)などです。詳しくは事務局まで。

美しい地球を守る意識を世界で共有する日
アースデイ(4月29日) 富山市ファミリーパークに、きんたろう倶楽部も賛同しています。

きんたろう倶楽部の 目指すこと

私たちは、人手が入らなくなり、放置された富山の森や山に無関心ではいられません。かつて里山は、都市にエネルギーや資源を供給して市民の生活



子どもたちも植樹に参加

を支え、同時に山の人びとの暮らしの基盤でもありました。

いまでは、すっかり生活様式が変わり、森や山に人の手が入らなくなりました。薪や炭を採った雑木林、スギの植林地、竹林、田や畑までが放置され、里山は藪山と化しました。過疎化、高齢化が進み、人影も途絶えつつあります。山に暮らす動物たちとの関係も変化しました。古来から日本人が大事にしてきた自然を敬う気持ちや手入れが忘れられ、人と自然のバランスが崩れだしたのです。

森が荒れれば、都市も廃れることは歴史が証明しています。森とのつながりがなくなった都市では、人間関係に疲弊した不幸な出来事も頻発しています。

新しい森の再生と活用の仕組みを確立し、いかに森を元気に、人を元気に



下草を刈り間伐すると森が明るくなる

都市を元気にしていくか。そのことがいま私たち一人ひとりに問われています。

昔々、大人になってから都で名をあげたきんたろうは、森でクマたちと元気に仲良く暮らしていました。山に富む私たちのふるさと富山にも、きんたろうのモデルといわれる坂田金時の逸話があります。森と人の元気のために、私たちは「きんたろう倶楽部」を設立しました

きんたろう倶楽部の行動ビジョンは、次の6つを柱としています。

1. 森づくり

森に関心を持つさまざまな人々とネットワークを組み、森に人びとをいざない、楽しく知恵と汗を出して、元気な森づくりをします。

2. 人づくり

森は私たちヒトの故郷です。森の緑、空気、音、土の感触、匂い、味、どれも人が元気にします。より多くの人

が、森に出かけるように、森の楽しさを知るように、奥深い森の仕組みを学べるように、森に住むように、そして元気が出るように、人びとへの啓発やリーダーの育成を通して、人づくりをします。

3. 地域づくり

森と街を行き交う人や物の交流を促進する「山と街の参動交代」の仕組みを作り、山や里、そして街に住む人びとが、元気になる地域づくりを進めます。

4. 山と街を元気にするために

私たちの活動を元気にするために

5. 情報づくり

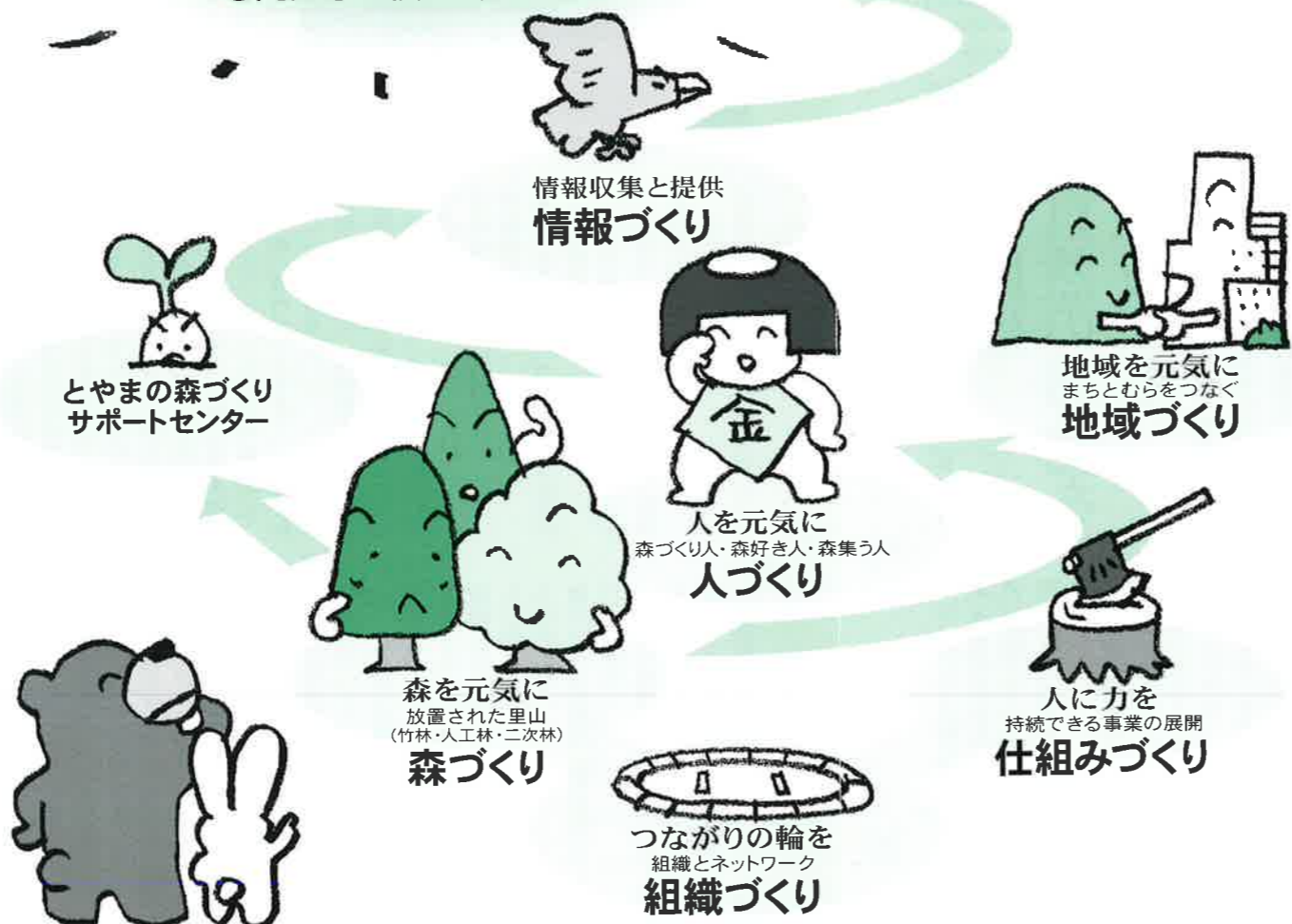
新しい視点で森の幸を街に届け、街の支援を森の事業につなげる。さまざまな生業(なりわい)づくりから新たな森の仕事をおこし、森と街の間で経済が循環する。このように、自然の恵

みを生かしながら、活動が元気で持続できる仕組みづくりをします。

6. 組織づくり

活動を常に活性化させるためには、しなやかな調整機能と、しっかりと運営が必要となります。あるべき姿(ビジョン)を明確にし、具体的な目標と計画をつくり、効果的に実践し、それを検証し、改善して次へつないでいく。こんな経営を行える組織づくりをします。

きんたろう倶楽部はやるぞ きんたろう倶楽部概念図



長続きさせるために
6. 組織づくり

活動を常に活性化させるためには、しなやかな調整機能と、しっかりと運営が必要となります。あるべき姿(ビジョン)を明確にし、具体的な目標と計画をつくり、効果的に実践し、それを検証し、改善して次へつないでいく。こんな経営を行える組織づくりをします。

人と人のつながりを元気にするために
5. 情報づくり

木の不思議、森の楽しさや生態の奥深さ、森と人との結びつきなど、楽しく学んだものを多くの人に伝えていきます。また、活動の状況を発信して、多くの人の声を吸収し、人と人のつながりを元気にし、次の発展へつなげる情報づくりをします。

山と街を元気にするために
4. 山と街を元気にするために

私たちの活動を元気にするために

新しい視点で森の幸を街に届け、街の支援を森の事業につなげる。さまざまな生業(なりわい)づくりから新たな森の仕事をおこし、森と街の間で経済が循環する。このように、自然の恵

■ 森づくり計画

	春(4月下旬~6月上旬)	夏(6月上旬~9月上旬)	秋(9月中旬~11月下旬)	冬(12月~3月)
森林整備	広葉樹などの稚樹採取と育苗管理	草刈り	つる切り、間伐、低草木仮払い、種子集め、落ち葉拾い、植樹	リース、門松づくり、稚苗養生、ほだ木づくりときのこの菌入れ
竹林整備	間引き、筍採り、竹加工、竹炭	整備、竹加工、竹炭	整備、竹加工、竹炭	竹加工、竹炭
イベントなど	森づくりのリーダー養成、山菜採り		森の食祭などのイベント	かんじき遊び、雪遊び、意見交換、研修会



森がないと、ぼくたち困ります。

私たちは森づくりを応援します。

越中から、日本の中心から、情報発信。

北日本新聞

婦負森林組合

富山市八尾町梅苑町1-95-1

木材加工センター

富山市八尾町城生32

立山山麓森林組合

富山市馬瀬口86

富山造園業協同組合

富山市今泉北部町1-1 寺垣ビル208号

YES! GAS

Yes! Natural

GAS Energy Communication COMPANY 日本海ガス

http://www.ngas.co.jp

きんたろう倶楽部

シンボルマークは、里山再生の「山」をイメージしました。山の目は、生きている山の目であり、山に住む動物の目でもあります。山の背中は、森を表現しています。

(野口富美子)

きんたろう倶楽部のロゴ、シンボルマークは公募しました。募集作品のなかから野口富美子さん(静岡県御殿場市)の作品が選ばれました。

